

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】十分達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

(1) 学習指導

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>ア 進学指導重点校として、学力向上に向けた組織的、継続的な取組を進める。</p> <p>【B】</p>	<p>①習熟度授業、少人数授業や主体的・対話的で深い学び(「アクティブラーニング」)、ICTの活用等により、個々の生徒の学力に応じたきめ細かな学習指導を行う。</p> <p>②基礎学力が不足している生徒に対しては、早期に補習等を行い、学力向上に努める。</p> <p>③入学時からの学力の定点観測と「学力進路データベース」の整備により、個々の生徒の現状を全教員で共有し、学力の向上と進路希望の実現を図る。</p>	<p>①習熟度別授業や少人数授業が学力向上等に有効に機能した。アクティブラーニングを取り入れたりICTを活用した授業は増えているが、主体的・対話的で深い学びを進路実現に結びつける組織的取組が課題である。</p> <p>②各学年で成績不良者に対する個人面談や基礎学力向上のための個別指導等を実施した。</p> <p>③模擬試験の分析結果を進学対策会議で学年と教科が共有し、FINEの活用も進んでいる。データベースの構築も進み志望校検討等に活用できるようになった。</p>
<p>イ 生徒の自主学習時間を確保するとともに、学習環境を保証する為の支援を行う。</p> <p>【B】</p>	<p>①年2回学習状況調査を実施し、生徒の自主学習時間を調査し、適切な指導を行う。</p> <p>②1学年では「中学校での学習から高校での学習」への円滑な移行、2学年では学習を前提とした部活動、学校行事であることの徹底、3学年では第一志望をあきらめず後期入試まで頑張る指導を全校体制で行う。</p> <p>③退職ボランティアや卒業生等をチューターとして活用し、自習室を午後8時まで(夏季休業日中は7時まで)開放する。</p>	<p>①②11月の学習状況調査では6月に比べ1・2学年とも学習時間が増加した。調査結果は考査後の成績推移個人票と併せて面談資料等として活用した。3学年はセンター試験の5教科型出願が88%と極めて高く、自己採点もほぼ全員が提出した。</p> <p>③自習室を学期中は平日と授業のある土曜日に8時まで、長期休業日中は平日のみ7時まで開放し、一日平均約60名が利用した。卒業生チューターの相談日を年間31日設定し、一日あたりの平均相談者数は約3名だった。</p>
<p>ウ 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針も踏まえ、国際社会に貢献するトップリーダーにふさわしい幅広い教養と豊かな国際感覚を醸成する。</p>	<p>①日本人としての教養、国際人としての教養を身に付け、多様な文化や価値観を理解しそれを受け入れる知性と寛容さを持つ生徒を育成できるよう、次世代リーダー育成道場への参加や海外の姉妹校等との交流を積極的に進めるとともに、ビブリオバトル等を活用した読書活動や様々な文化活動等の充実を図る。</p> <p>②オリンピック・パラリンピック教育の取組として、全教科を通じて日本の歴史と文化に対する理解を深めるとともに、世界友</p>	<p>①②次世代リーダー育成道場では5期生2名が8月から米国に、6期生2名のうち1名が1月から豪州に留学した。海外サイエンス研修は8月に豪州研修を新たに開始し、1月の米国研修と合わせて30名が参加するとともに、トルコ・韓国・米国の高校が来校して本校生徒と交流を行った。また韓国・台湾に加えてフィリピンの高校とも姉妹校協定を締結し、さらなる姉妹校拡大を目指してシンガポール、マレーシア、カンボジア、ベトナムの高校とも交渉中である。1月のSSH生徒研究成果合同発表会にはテレ</p>

【A】	達プロジェクトを推進し、インターネット等も活用しながら海外の姉妹校等との交流を進める。	ビ会議システムを利用してカンボジア3校とフィリピン・豪州・韓国各1校が参加し、口頭発表と質疑応答を行った。
エ 英語教育推進校として、生徒の英語力の向上を図るとともに、国際社会に貢献する人材を育成する。 【A】	①オンライン英会話やJETの活用等により、特に「聞く」「話す」力を育てる。 ②4技能を測定する外部検定試験を1学年と2学年全員に受験させ、総合的な英語力の向上を図る。 ③ALT及びJETを活用し、現代英語として適切な表現ができる力を育成するとともに、理数論文等でも的確な表現ができる力を育成する。 ④英語科教員のオンライン英会話研修により、英語による英語授業を円滑に行えるようにする。	①ALTや2名のJETの活用と併せて1年生全員を対象にオンライン英会話を約90回（各クラス9～10回）実施し生徒に好評であった。 ②GTECを受験させ、バランスの取れた4技能の育成に努めた。 ③2学期から理系が専門の2人目のJETが配置され、英語の授業の他にSSHやTMの論文指導や英語によるプレゼンテーション指導等を高いレベルで実施できた。 ④JETの複数配置により英語による英語授業の場が増え、「読む」「書く」学習とのバランスが取れるようになった。
オ SSH事業の一層の充実を図る。 【A】	①科学の甲子園等のコンテストでの上位入賞者数、生徒の英語での研究発表の回数を増やす。 ②バーチャルシンポジウムや大学と高校の理系女子交流会を開催するとともに、海外を含む研究機関や大学、高校等との共同研究や直接交流、他のSSH校との連携を強化する。 ③SSH事業での成果を、東京都内及び首都圏の小中学校や高校の教員に発信し、地域の理数教育の発展に寄与する。 ④SSHクラス以外の生徒にも理数講演会や教科融合型の講義、ワークショップ等を行い、理数リテラシーの育成とプレゼンテーション能力の向上を図る。	①本校生徒の入賞は約50件、英語での発表は約110件だった。 ②理系女子交流会（SWR）の参加は高校8校、大学8校（海外の1大学を含む）、生徒研究成果合同発表会（TSS）の参加は35校（非SSH校6校、海外6校、小学校1校を含む）だった。TSSでは海外6校と日本3校でリアルタイムオンラインシンポジウムを実施した。 ③小学校教員向け研修会を16回、高校教員向け研修会を12回実施した。本校生徒が小学生の自由研究を支援する交流も続いた。 ④「文理融合」をテーマに全生徒を対象とするSSH講演会を計7回実施した。7月には新宿の伝統野菜「とうがらし」を素材に家庭・英語・生物・世界史・化学のリレー授業を行った。

(2) 進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
ア 進学指導重点校として、1学年から系統的、組織的な進路指導をきめ細かく行う。	①学習ガイダンス等を丁寧に実施することで、入学時の高い進学目標を持ち続けさせ、目標達成のための努力を促す。 ②志望校検討会を活用し、進路部を中心として、学年と教科が個々の生徒の情報を共有して学力向上と進路希望の実現を図る。	①1・2年生は年5回の学習ガイダンスで学習への取組姿勢や模試の結果を踏まえた具体的な学習方法を指導した。 ②11月に全教員で志望校検討会を実施し、個々の生徒の模試の結果等を踏まえた学年・各教科の取組等について情報共有を行った。

<p>【A】</p>	<p>③学校外の機関等と連携し、総合的な学習の時間等を活用して、普通科進学校としてキャリア教育を推進する。</p>	<p>③新宿区教育委員会や選挙管理委員会等と連携し、区内の公園や児童館、図書館等での奉仕体験活動や主催者教育等を行った。</p>
<p>イ 長期休業日中の講習の参加生徒数を増やす。 【A】</p>	<p>①各教科で講習内容を検討し、全員体制で講習に取り組む。 ②部活動、学校行事より講習を優先するよう生徒を指導し、講習の参加生徒数を増やす。 ③早い時期に長期休業日中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画を立てさせる。</p>	<p>①②③夏季講習の内容一覧を5月23日に配布し、6月中旬までに申込書を提出させた。開講講座数は3年生向け93講座、1・2年生向け41講座、全25日間の延べ受講者数は3年生だけで1万人を超えた。日常講習や3年の特別授業等も含め、5教科に情報を加えた6教科の教員ほぼ全員が講習に関わり、実技教科の教員も含めた全校体制で生徒を支援した。</p>
<p>ウ 「チームメディカル」(TM)の取組を進める。 【A】</p>	<p>①在京の医科大学や医学系研究機関、病院等と連携し、生徒向けの講演、見学、体験実習等を行い、課題研究と研究発表会を行う。 ②1年から十分な自主学習時間を確保させ、文系科目も含めて基礎基本を取りこぼすことなく学習させる。 ③医学部医学科に対する客観的かつ正確な進路情報を提供し、首都圏に限らず、日本全国で自分に合った大学を選択できるよう支援する。 ④将来的に文系進学者や医学部以外の理系進学者への活用も視野に入れ、クラウド等を活用して生徒個々の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握して指導するシステムを確立する。</p>	<p>①医師等による講演を含むTMミーティングを12回、病院・研究所等の見学・実習等を10回実施した。12月のTM研究発表会では発表要旨を英語でまとめ日本語で発表した。 ②TM生の自主学習時間は1・2年生とも平均3時間以上で非TM生を上回り、キャリア教育とクラウドによる学習管理の成果が見られた。 ③TM生対象の模擬試験を年3回実施するとともに、医学部進学に実績のある予備校等との連携により、模試結果を踏まえた生徒向けの勉強講演会や教員向け研修会を実施した。 ④クラウドによる推奨問題の配信を6割、弱点補強のための学習動画の配信を5割のTM生が利用し、利用生徒の評価も高い。ポートフォリオとしての活用も含め、次年度以降非TM生を含めた活用を検討する。</p>

(3) 生活指導

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>ア SNSの適切な利用促進に関する指導を徹底する 【A】</p>	<p>①望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS戸山ルール」の徹底を図る。</p>	<p>①全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS戸山ルール」の徹底を図ったことで、SNSに関する重大事故は発生しなかった。今後も小さなトラブルや不適切な行為を見逃さず、早期発見、早期対応に努めることで、全ての生徒に安心かつ快適な学校生活を保証する。</p>

<p>イ 体罰根絶といじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。</p> <p>【A】</p>	<p>①いじめ・体罰に関する調査を年3回実施するとともに、特に部活動において、顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を許さない体制を構築する。</p> <p>②法律上のいじめの定義が社会通念上のいじめの概念より広く捉えられていることを踏まえ、学校いじめ対策委員会を活用し、管理職、養護教諭、生徒指導主任、学年主任、学級担任、スクールカウンセラー等が連携していじめの未然防止に努めるとともに、その端緒で速やかな解決を図る。</p>	<p>①②いじめ・体罰調査を各学期1回ずつ実施し、少しでも気になる記述については管理職が直接当該生徒と面談して事実確認を行い、学校いじめ対策委員会に報告することで情報共有を図った。体罰については引き続き全教職員に体罰根絶に向けた目標を設定させ、外部指導員も含めて組織としての根絶を徹底する。いじめについても法律上のいじめに該当する事例はなかったが、悪意はなくとも他者を傷つけてしまう可能性があることを踏まえ、今後も生徒への指導を含めた未然防止を徹底する。</p>
---	---	---

(4) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	具体的 な 方 策	今年度の取組状況
<p>ア 戸山祭、運動会等の学校行事をとおして、戸山高校生としての一体感を持たせ、学校生活の充実を図る。</p> <p>【A】</p>	<p>①生徒の自主性を尊重しつつ、適時適切な指導を入れ、質の高さを確保するとともに、見通しを持って計画的に準備させることにより、授業や学業との両立を図る。</p> <p>②経営企画室と担当教員が連携し、会計担当生徒を指導して適切な会計処理を行う。</p> <p>③学校行事終了後、速やかに学習中心の生活に復帰できるよう、全教員が指導を行う。</p>	<p>①③運動会、戸山・新宿戦、戸山祭の三大行事については、準備等に一部課題は見られたものの、自主自立の名に恥じない生徒主体の運営により、充実した内容で実施できた。学習との両立や終了後の切り替えも概ね適切に行われた。</p> <p>②担当教員が会計担当生徒を指導するとともに、経営企画室においてもダブルチェックを行い、適正な会計処理が行われた。</p>
<p>イ 部活動をとおして、ルールを守り、目標に向かって仲間と協力し、努力する態度を育成する。</p> <p>【A】</p>	<p>①活動内容や活動方法等を工夫することで、短時間で質の高い活動を行うとともに、活動時間や下校時刻等を厳守させることで、メリハリのある活動と自主学習時間の確保を図る。</p> <p>②部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。</p>	<p>①部活動加入率は111%。生徒会のクラブ管理局の支援もあって概ね適正に活動が行われた。囲碁将棋部の全国大会3位と関東大会出場、陸上部の関東大会出場、地理歴史部の外部コンテスト入賞などの成果も見られた。</p> <p>②各部活動ごとに校長名の口座を開設し、部費の一元管理を徹底するとともに、通帳や会計報告等の帳簿や文書類を確認することで、適正な執行・管理を行うことができた。</p>

(5) 美化・健康づくり

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今 年 度 の 取 組 状 況
<p>ア 心身の健康と安全に対する意識を高め、健全育成を支援する。</p> <p>【A】</p>	<p>①体育科教員及び部活動顧問の適切な指導により、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万一事故が発生した際の対応についてシュミレーションを行い、生徒の安全を確保する。</p> <p>②関係機関と連携して防犯・防災教育を行い、自分の身は自分で守る意識を持たせる。</p> <p>③自転車使用に関する安全指導をはじめとした交通安全指導を徹底する。</p> <p>④発達障害等特別な支援が必要な生徒を含む障害のある生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を行うとともに、障害者への理解を深める教育を行う。</p>	<p>①夏季合宿前の7月に救急講習会を実施したことで、夏季休業日中に大きな事故は発生しなかった。学期中も含めて救急車を要請するような重大事故はほとんど発生せず、生徒への安全指導を含めた健康・安全に配慮した教育活動が高いレベルで実施できた。</p> <p>②警察と連携したセーフティ教室（ネット・ケータイの賢い使い方と薬物乱用防止）、消防署と連携した宿泊防災訓練と避難訓練を実施した。</p> <p>③自転車通学者には、被害者、加害者どちらにもなり得ることを指導したうえで、交通法規の順守を誓約させ、許可証を発行している。</p> <p>④養護教諭を核とした管理職・スクールカウンセラー・学級担任の連携と情報共有が有効に機能し、専門医の助言等も受けながら、必要な生徒に対して効果的な支援を行うことができた。</p>
<p>イ 「アクティブプラン to 2020」を踏まえ、生徒の体力向上を支援する。</p> <p>【B】</p>	<p>①本校の生徒が弱い「投げる力」等の強化を図り、体力テストの結果を向上させる。</p> <p>②オリンピック・パラリンピックをよい契機として、生涯にわたりスポーツに親しむ姿勢を育てる。</p>	<p>①体力テストの結果は昨年より向上し全国平均を上回った。「投げる力」については引き続き強化する必要がある。</p> <p>②視覚障害の生徒が在籍していることを踏まえ、体育でブラインドサッカーやゴールボールの体験を行い、障害者スポーツの理解を深めた。</p>
<p>ウ 校内美化の徹底を図る。</p> <p>【A】</p>	<p>①ごみの分別や清掃の励行等を全教職員が指導することで、校内美化の徹底を図り、学習に場にふさわしい環境を整備する。</p>	<p>①厚生委員、環境対策委員の生徒を指導して校内美化の呼びかけと月1回の衛生点検・清掃点検を実施し、学校見学者等の美化に対する批判的意見が減少した。</p>

(6) 募集・広報活動

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今 年 度 の 取 組 状 況
<p>ア 組織的かつきめ細かな募集対策の充実を図る。</p> <p>【A】</p>	<p>①本校の特色や強みを重点的にわかりやすくアピールする等の戦略的な募集・広報活動を展開するとともに、学校案内や学校説明会、学校見学会等の充実に努める。</p> <p>②経営企画室等とも連携しながら、中学生やその保護者の目線に立った情報発信を強化する。</p>	<p>①2回の学校説明会参加者は1768名で前年度より313名増加。校長と各説明者の説明内容が重複しないよう事前に調整を行い効果的なアピールができた。学校見学会等の希望者も多いので次年度は電子申請の受付時期等を改善する。</p> <p>②生徒会主催学校説明会は今年も中学生に好評。今後も生徒や保護者、行政系職員等の視点も取り入れた学校PRの充実を図る。</p>

<p>イ 学校ホームページの充実を図る。 【A】</p>	<p>①ホームページによる発信力が学校の評判を左右するという現状を踏まえ、本校の特色や教育活動の様子等をタイムリーに発信するとともに、古い情報の速やかな更新とわかりやすい画面構成の工夫に努める。</p>	<p>①年間のホームページ更新回数136回。学校紹介ビデオを5年ぶりに更新するとともに、校長通信、戸山ホットライン、SSH年度別活動記録、TMニュース等の定期的な発行・更新により、生徒の活動の様子がわかる最新情報を提供しよう努めた。</p>
----------------------------------	---	--

(7) 学校経営・組織体制

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>ア 校内組織を活性化し、組織的・計画的な学校運営を行う。 【A】</p>	<p>①主幹・主任のリーダーシップに基づく分掌・学年・教科内での情報共有と管理職への報告・連絡・相談を徹底し、風通しのよい職場環境を構築する。 ②企画調整会議と進学対策会議を核として、分掌会・学年会・教科会等との情報の相互伝達と共有化を図る。</p>	<p>①②企画調整会議が学校全体の業務に関わる企画立案や各学年・分掌相互の連絡調整等を行う場として有効に機能した。年間16回開催された進学対策会議では、模試の結果分析やそれを踏まえた各教科の取組の方向性等の情報が進路部・学年・教科で共有され、全教員が一体となった進路指導を進める一助となった。</p>
<p>イ 自律経営推進予算の有効活用を図る。 【C】</p>	<p>①計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ②経営企画室と教員が連携し、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を行う。</p>	<p>①一般需用費のセンター執行率44%で昨年をやや下回った。60%を目標により計画的な予算執行に取り組む必要がある。 ②支援センターの支援もあって、テニスコートやエアコン等生徒の安全や学習環境の整備に関わる更新や修繕を迅速に行うことができた。</p>
<p>ウ 図書館の充実と利用率の向上を図る。 【A】</p>	<p>①自律経営推進予算に基づく蔵書の充実に努め、生徒の学力の向上、幅広い教養や国際性の育成等に役立つ資料を収集する。 ②ビブリオバトルへの取組や新着図書・推薦図書の紹介等により、生徒に読書習慣を身に付けさせる。</p>	<p>①②限られた予算の中で866冊の一般図書を購入し、蔵書の充実に努めた。国語科・学年・図書館の連携により、ビブリオバトルの校内選考会や「読んでおきたい本100選」の提示、定期的な読書記録の提出等の取組を行った結果、貸出冊数が前年度より500冊以上多い約2300冊となった。</p>
<p>エ 教職員のサービスに関する意識を向上させ、サービス事故の根絶を図る。 【A】</p>	<p>①サービス事故防止研修を実施し、特に体罰や不適切な指導、セクハラ等の禁止について徹底を図る。 ②個人情報の組織的な収集と適正な管理について徹底するとともに、特に生徒の答案の紛失・誤廃棄を防止するための必要な措置を講じる。</p>	<p>①7月は体罰防止、12月は個人情報の適切な管理を重点テーマとするサービス事故防止研修を実施し、サービス規律の徹底を図った。 ②答案返却時に欠席した生徒の答案の紛失や誤廃棄が多く発生している現状を踏まえ、過去に発生した事象事例に基づくケーススタディを職員会議で行った。</p>

3 次年度に向けた課題と対応策

進学指導重点校として、生徒の高い進路希望の実現に取り組んだ結果、現浪合わせた東京大学合格者は昨年より1名多い11名（現役5・既卒6）となり、2年連続2ケタとなった。また、難関国公立大学現役合格者数も4年連続で20名を超え、国公立大学現役合格者数も4年連続で100名を超えるなど、進学実績は着実に右肩上がりとなっている。さらに、開始2年目を迎えたチーム・メディカル（TM）事業は、TMの活動に直接関わっていない生徒も含めて医学部医学科へチャレンジする生徒を増やす効果をもたらしており、国公立大学医学部医学科に3名が現役合格するとともに、東京都枠（卒業後9年間へき地医療等に従事することを条件に入学金・授業料等が全額免除）で在京の私立大学医学部医学科に現役合格した生徒や、既卒生ながら最難関の東京大学理科Ⅲ類に合格した生徒も現れている。

このような実績と成果を踏まえ、さらなる高みを目指すためには、教育活動のあらゆる場面を通じて、「主体性」（他者の助言を受け入れる素直さを前提としつつ、自らの意志や判断に基づき、自らの目標や理想に向かって、自らの責任で行動していく力）を持った生徒を育てる必要があると考える。

そのために、次年度以降以下の各項目について重点的に取り組んでいく。

- (1) 高大接続改革の流れの中で、「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価する記述式問題や教科融合型問題等に対応できる力を全ての生徒に身に付けさせることを目指して、全教科で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を進める。
- (2) 次期学習指導要領を視野に入れ、カリキュラムマネジメントの視点に立って、生徒の「主体性」を育てるために必要な資質・能力や学び方、学習評価のあり方等を包括した学校のグランドデザインを作成するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」についての共通理解を図り、それらを踏まえた学習を推進する。
- (3) SSHの取組を全校に展開することにより、「探究活動」を軸とした「自律的な学び」「知識の体系化」「仮説検証型学習」「自問自答型学習」等に取り組む、「受け身の学習」から「能動的な学び」への転換を図る。
- (4) 特別活動（ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事）や部活動、「人間と社会」の活動等を通して、本校の伝統である「自主自立」の精神を踏まえ、生徒が自ら課題を見つけ、自ら収集した情報をもとに自ら解決策を考え、自らの意志や判断に基づいて自らの責任で行動し、問題をよりよく解決していけるよう最大限の支援を行う。